

この冬、古典を一冊読み切ろう

開倫塾

塾長 林明夫

Q：古典とは何ですか。

A：日本や世界の人々が、長い年月をかけて読み継いできた作品・著作です。

例えば、日本でしたら、紫式部の「源氏物語」は古典です。中国でしたら、孔子の教えを弟子たちがまとめたといわれる「論語」は古典です。

源氏物語や論語は、日本や中国の人々だけではなく、世界の人々によっても読み継がれていますので、「世界の古典」でもあります。

Q：どのようにして古典を読み切ったらよいのですか。論語を例に、お話しください。

A：わかりました。

(1) 各々の古典には、多くの種類の本が出ています。そこで、まず大切なのは、基本となるテキスト、つまり、その古典を何で読むのかを決めることです。

(2) 例えば、この冬に論語を読み切るのでしたら、宮崎市定著「現代語訳 論語」岩波現代文庫、岩波書店2000年5月16日刊をテキストにするとよいと思います。

Q：テキストを決めたらどうするのですか。

A：(1) 論語は漢文で書かれていますので、漢文がスラスラ読める人はそのまま一気に読む。論語は、孔子の教えを弟子たちが499章にまとめたものです。章といっても、一つ一つの章はほとんどが短い文章ですので、漢文が読める人ならすぐに読み切ることができます。

(2) 漢文をそのまま読んだのでは、よくわからない場合は、各々の章ごとに「現代語訳」を、まず読む。

(3) 「子曰く」のあとの、孔子の教えの内容の部分に鉛筆でカギ・カッコをつける。カギ・カッコの中で、大切と思われる語句や教えに、鉛筆で横線を引く、丸や四角で囲む。

(4) 次に、「書き下し文」の該当する語句や教えに、鉛筆で横線を引く、丸や四角で囲む。

(5) 最後に、「漢文」の該当する語句や内容に、鉛筆で横線を引く、丸や四角で囲む。

(6) 更には、その章の「現代語訳」、「書き下し文」、「漢文」の順序で、鉛筆で印をつけたところを中心にもう一度読んでみる。できれば、「音読」、声を出して読んでみる。

(7) このように、1章ずつコツコツと読めば、1~2か月で論語を読み切ることができます。

Q：紫式部の「源氏物語」は、どのように読み切ったらよいのですか。

A：(1) 「現代語訳」のみの源氏物語がたくさん出ています。現代語だけで読み通したい場合には、図書館や書店でどの源氏物語がよいか読み比べてください。自分で購入した本の場合は、気に入ったところにカギ・カッコや横線などで印をつけ、行きつ戻りつしながら読み進めることをおすすめします。

(2) 「古文」の好きな方は、柳井滋他校注「源氏物語 (1) 桐壺一末摘花」岩波文庫、岩波書店2017年7月14日刊をテキストにして、次のようにお読みになることをおすすめします。

- (3) この岩波文庫版の源氏物語は、読者の役に立つことを願い、痒い所に手が届くとはこのことかと感激するほど、微に入り細にわたりよく工夫された第一級のテキストです。
- (4) テキストを開くと、偶数の右ページが「原文（古文）」、奇数の左ページが「注釈」となっています。
- (5) まずは、右ページの原文に当たる「古文」を、意味のまとまりごとに声を出して読む。「注釈」の番号があるところまで、ゆっくりと読み進める。
- (6) 次に、「注釈」をゆっくりと読む。「注釈」その内容がよく「理解」できたら、原文に当たる「古文」をもう一度音読する。さらに、「注釈」にもう一度目を通す。
- (7) このように一つの段落を「原文」「注釈」、「原文」「注釈」と行きつ戻りつしながら、次の「注釈」が出てくるところまでを一つの単位にして読み進める。
- (8) このようにして「1段落」を読み切ったら、その「段落」をもう一度音読する、声を出して読んでみることをおすすめします。
- (9) この岩波文庫版の源氏物語ほど、「古文を愛する読者の立場」に立って作られた、読みやすい源氏物語はありません。2～3か月かけ、「注釈」を含めてじっくりとお読みください。
- (10) どうしても「古文」から入るのは難しいという場合には、「注釈」をよく読んでから「古文」を読むという手もあります。ぜひ、お試しを。

Q：なるほど、「注釈を大切に」ということですね。では、近代文学の古典ともいわれる夏目漱石の作品は、どのように読んだらよいのですか。

- A：(1) 夏目漱石の作品も、注釈なしで原文を読み通すことは極めて困難と思われ
(2) ただし、いくら困難とはいえ、現代語訳のみで夏目漱石の作品を読むのは余りにももったいないです。ただし、1ページの中に数多くの難解な語句が頻出しますので、「注釈」のついた「全集」をテキストにすることをおすすめします。
(3) 夏目漱石の作品もたくさん出版されています。図書館や書店で実際の作品を手に取り、注釈がわかりやすく一番読みやすいものをお選びになることをおすすめします。特に、図書館にあるわかりやすい「注釈」が豊富な岩波書店版の「漱石全集」がおすすめです。2016年から刊行されている岩波書店版「定本 漱石全集」は、超おすすめです。

Q：「古典は、図書館の全集で」ですか。

- A：(1) そのとおりです。
(2) 学校図書館や公立図書館には、読みやすく優れた「全集」が、文字通り山ほど所蔵されています。以前は知識欲旺盛な若者や社会人が山ほどいましたので、図書館の「全集」はいつも貸し出し中で、なかなか読むことが難しかったようです。しかし、最近は「古典離れ」が進んでいるためか、いくらでも読めるようです。
(3) 今こそチャンスですので、これぞという作家や著者がいたら、一つ一つの作品を「注釈」も含めて、「全集」で1～2か月かけてじっくりと読み切ってくださいね。
(4) 文学作品などの人文科学だけではなく、自然科学や社会科学の分野にも、日本や世界各国、人類の宝物ともいえる「古典」が綺羅星のように、数えきれないほどあります。
(5) この冬は、たくさんある中の一つの「古典」との「時と空間、時空を超えた対話」に挑戦しましょう。

2017年11月21日記

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)